

「ゴルフ場全県制覇達成」

わがゴルフ人生あれこれ

南部昌弘

2006.6.28 香川県の高松グランドCCにおいて全国47都道府県のゴルフ場制覇（各県最低ひとつのゴルフ場でのプレー）を達成いたしました。



1971に筆下ろし以来36年目の成果です。

記憶をたどれば、日本全国230コース余りでプレーをしたこととなります。

その間一緒にラウンドしたパートナーは数え切れません。

多くの方々と楽しくラウンドできた事をいま深く感謝しています。

その間の数々の思い出を思いつく

ままに記しておきたいと筆をとりました。

ゴルフとの出会い

昭和40年松下電器は日本で始めて完全週休2日制を導入し、余暇をどう使うかを労使一体となって模索し、「1日教養・1日休養」のスローガンのもとさまざまな施策が打ち出されました。当時30才に満たない駆け出しの営業マンでありましたが、直属上司の課長から「これからの営業マンは営業活動にゴルフが必須だ。課員全員ゴルフ道具を揃え各自練習しておくように」との厳命を受けました。なに、ゴルフ狂の課長が仕事に託け部下からメシアゲヨウとの魂胆だったのですが。なにしろ「課長命令」ですからしかたなく安物のハーフセット一式を購入し、近くの川原の打ちっ放しでやみくもにドライバーを振り回していたのがゴルフとの出会いでありました。

散々な筆下ろし

ところが、当の課長は転勤になり、私も営業職から予てより希望していた宣伝職に転属し、ゴルフセットはあえなくお蔵入りとなっていました。

昭和45年に宣伝職の主任に昇格して初めての社内の宣伝コンクールで企画したキャンペーンが社長賞を受賞し、そのお祝いに社内外の関係者でゴルフ会をすることになりました。「キャンペーンの張本人が欠席する事相成らず」と当時の部長命令で泣く泣くコンペというものに初参加したのがゴルフの筆下ろしでした。

結果は雨の中ということもあり、チョロあり、5パットあり、バンカーの大叩きありの將に「汗と涙」の散々な筆下ろしでありました。二度とゴルフはするまいと硬く決意したものです。

それがどうしたはずみか、ゴルフにはまってしまったのは「ゴルフの魔力」というほかありません。

ひとつには、近くに住んでいた同じ宣伝の仲間のS氏となぜか気が合い、最初は車で送り迎えまでしてゴルフレッスンに付き合ってくれたお蔭と今も感謝しています。何年か後に腕前でS先生を超えて「恩返し」が出来た時は感激でした。

会社生活とゴルフ

自分のゴルフ人生を振り返る時、会社生活とは切っても切り離せません。当然社内で何組かのゴルフ仲間ができ、夏休みやG・Wに北海道・九州・信州など遠出をはかり、ゴルフを口実に旅とグルメを満喫いたしたものです。

ほろ苦い思い出

当時は日本経済も高度成長の真最中でゴルフ人口も急増し、日本中がゴルフ場の開発に血道を上げておりました。

ご多分に漏れず、会社に会員募集の美しいパンフレットを持参したセールスマンがウロチョロし、ゴルフの会員権が投資の対象になるという「ウマイ話」や「これからはビジターではゴルフができない」という話が広がり出していました。ゴルフ仲間と相談しあるゴルフ場の会員権を買ったところ、その開発予定地に遺跡あるといった杜撰な計画が発覚しなけなしのヘソクリを失くしてしまいました。にもかかわらず、懲りずにまた別のゴルフ場に手を出したりし(しばらくは仲間と楽しんだのですが)、バブル弾けてこれも今や二束三文。手痛い失敗を2度、3度と繰り返してしまいました。

バブル絶頂期には、そのゴルフ場の会員権を2～3千万円で「即金で買う」というハガキが連日舞い込みます。女房の「売れ売れ」の攻撃を「鉄兜をか

ぶって」しのいだ結果がこの始末。今も女房に頭が上がりません。

宣伝事業部でメディアの窓口の責任者をしていたおかげで他では出来ない経験をさせていただきました。当時はゴルフブームで、有名トーナメントに数多く協賛していました。

協賛トーナメントあれこれ



プロゴルフのトーナメントのトップはなんといっても日本オープンです。

しかしこの放映権はNHKが持っています。当然広告は出来ません。しかし協賛金は当然とられます。ではスポンサー企業はどうしてそれを回収するかといえば、

ゴルフトーナメントが行われるゴルフ場の中でカメラに入りそうな場所（例えばティーショットの後ろなど）に看板を出す、キャディさんのゼッケンにロゴマークを入れる、チラシ、パンフレット、業務案内などには協賛企業名またはロゴマークを明記するなどの方法しかありません。

しかし当社の Panasonic にしる National は、NEC とか SONY, HONDA に比べて長過ぎる。折角映っても Pans とか Natio で終わってしまうことが多いのです。

ここでは関係ありませんが、松下電器産業という社名も長すぎ TV のテロップでは松下電器と省略しましたが、英文字表記も MATUSHITA は MITUBISHI と遠くから見て判別しづらいとの意見もあり、ブランド名、社名の件ではかなり損をしていました。

日本オープンといえば、協賛特典としてアフタープレーの権利がありました。

大会終了翌日各スポンサーに 1 ~ 2 組本戦と同じ条件でプレーできる権利が付与されていました。

毎回現地の支店や統括部に声をかけ、ゴルフ好きの現地の有力得意先を招待し、日ごろの営業活動に役立てていました。

たまたま第 56 回の下関 GC で行われた日本オープンのアフタープレーに現地の支店長、統括部長等と一緒にラウンドする機会を得ました。

長い距離、きついラフ、狭いフェアウエイでグリーンに届くまでが大

仕事、おまけに決勝戦と同じピンの位置ですから、難しい位置にきてあり、おまけに早いときているのでやっと乗ってもなかなか寄らず入らずで、大汗の連続でした。

つくづくプロのすごさを実感でき、プロと同条件でプレーできた感激は格別なものがありました。

協賛トーナメントといえば他にも楽しい余得もありました。

プロアマあれこれ

大きな大会には本戦の前日に大会関係者とのプロアマ戦があります。

住友銀行との関係で協賛した太平洋マスターズトーナメント（静岡・御殿場コース）には二回プロアマに出ました。1度は鈴木亨プロともう1度はトッド・ハミルトン・プロとの組でした。ハミルトンとラウンドした際、1番のティーグラウンドに大勢のギャラリーが押しかけ、何事ならん？と驚きました。後ろの組に神田正輝がいたのです。たださえ緊張する出だしで、大勢のギャラリーに囲まれ名前を呼ばれてのティショットはさすがにびびりました。本音を言うと幸いまっすぐ飛んだので少しいい気持ちでもありました。



T・ハミルトンプロは非常にまじめな青年でラウンド中、常にわれわれアマチュアの状態を見ていて何度かアドバイスしてくれたり、カタコトで話しかけたりしてくれたので、こちらもなにかとブロークンとアクションで和気藹々でした。一方鈴木プロは明日の本戦に備える準備に専念し、アマ連中には

一顧にしない傍若無人振りでした。やはり外人と日本人のファンあるいはスポンサーに対する接し方が根本から違うと感心させられました。

女子プロとも1度あります。フジサンケイレディスクラシック（山梨・富士桜CC）で韓国の美人ゴルファーのシン・ソーラさんとです。現在富士桜CCは男子のフジサンケイですが、当時は女子でした。彼女は飛距離もアマのそこそこの男子並で、パットが極端に下手で、チームにひとつも貢献できずわれわれに「ゴメンナサイ」と謝ってばかりいた印象しか残っていません。しかし美しい富士山をバックに美人ゴルファーとラウンドできたのは心ときめく思い出です。

会員権のセールス

松下興産が開発した神戸ロイヤルパインズGCの会員権の販売に一役買いました。

興産の関根社長から宣伝(事)が頼まれ、マスコミ各社に担当セールスを伴いに会員権の販売に同行し、時には下見と称し同伴プレーもいたしました。

当時毎週のように土曜日には神戸RPGに出かけ、ロビーでマスコミ要人をお迎えしていたので、友人から「いつの間にゴルフ場に出向した」とからかわれたくらいです。お陰でかなり無理をいって10数社に入らせていただきました。それらの会社とは「松下ロイヤル会」として懇親コンペを開いたりしてマスコミ対策としても役立てたと思っています。

神戸ロイヤルパインズGCは、キャディのいない完全セルフプレー方式です。始めは戸惑いましたが、慣れると安いし、気楽です。ゴルフはすべて自己責任ということが身につきました。

年金生活たる昨今は全国どこに行ってもなんの抵抗もなく、セルフで気軽にゴルフを楽しんでいます。これも神戸ロイヤルでの経験のおかげです。

真夜中にゴルフ？

ある時某テレビ局主催のチャリティーコンペがありました。当然協賛各社の代表の担当役員に招待がきましたが、コンペの様様を深夜にON・AIRという条件があり(ON・AIRしなければテレビ局は事業として交際費課税が課せられます)担当役員から担当窓口としてこちらにお鉢が廻ってきた訳です。だれも見えていないだろうと高をくくっていましたが、思いもかけない所から「昼間忙しくて深夜にゴルフ？」とひとりならずからかわれました。マスコミの怖さをいまさらながら実感させられました。その放送の中で杉原輝雄がゲストで解説しており、アマチュアのスイングをみてアドバイスしていたのですが、私には「どうしようもないので、そのままお楽しみなさい」というものでした。(トホホ・・・)

そんなこんなで会社生活中楽しく(時には痛い目にあいながら)ゴルフ場全国制覇を目指していましたが、定年時に16都道府県が未達で残りました。

定年後のゴルフ

定年数年前に女房とニュージーランドに旅した折、老夫婦が海岸沿いの平坦なコースを手引きのカートでのんびりラウンドしている姿を見て自分の余生のあり方のヒントをえました。丁度膝を傷めていた女房もラケットをクラブに替えてレッスンに励み



ました。

ゴルフ場がすぐ前というのが気に入った能登のリゾートにささやかなセカンドハウスを構え（ハウスネームを南なん亭と名づけ友人達を招いては楽しんでいますが）、毎月出かけては気楽に、気ままに二人でゴルフを楽しんでいる今日この頃です。当初は人に迷惑をかけない程度にと考えていましたが、今ではすっかり彼女のほうがはまっています。

お蔭で残りの16県のほとんどがカミサンの強力な後押しで実現したようなものです。もちろんついでに温泉めぐりのフルムーンで家庭円満というわけです。松下健保の保養所を大いに利用させていただきましたが、昨今リストラで数が減って残念です。

現在我が家のゴルフライフの実権は家計も含めてすべて山ノ神さまに握られております。

心残りのかずかず

いままで述べてきたように大変気ままな、たのしいゴルフ人生をおくってきましたが、心残りもいささかございます。

ひとつは、36年間でホールインワンを1度も達成できず、保険を掛け捨てたことです。（一度だけ女房とのセルフプレーであります、保険の対象外です）

二つ目はとうとう1R80を一度も切れませんでした。

ハーフで38、39はでても必ずあとが44とか46で、結局は元の木阿弥。38・42、40・40の80が最高でした。

年間平均でも1R90を切れませんでした。前半いいところまでいっていても大雨等気象条件の関係（言い訳にすぎませんが）等で100を大きく超える日が必ず年に何回かあって締めてみると91、2で終わっていました。

結局「好きと上手は別」ということの証でしょう。

最近スコアの記録もつける元気もなくなりました。せめて山の神にだけには負けないように頑張りたい、後10年元気にゴルフができればこれ以上の幸せはないと日々精進している今日この頃です。

（2006・9）